

## 令和元年度第1回宝塚市労働問題審議会 議事録

日 時：令和元年(2019年)7月23日(火)

午後3時00分～午後4時30分

会 場：宝塚市役所 3階 特別会議室

出席委員：上林会長、小池副会長、新谷委員、中村(正)委員、山内委員、中村(京)委員、志方委員、和田委員、幸長委員、田中委員、高岡委員、中谷委員、岡委員

事務局：福永産業文化部長、下浦産業振興室長、奥田商工勤労課長、溝渕、裏川

関係課：契約課、障害福祉課、せいかつ支援課、保育事業課長、地域福祉課

### 1. 委嘱状の交付について

3名の委員が改選され、中川宝塚市長より委嘱状を手渡した。

### 2. 署名委員の指名

事務局より議事録の署名委員を提案し、了承された。

### 3. 傍聴人の確認

傍聴人はいなかった。

### 4. 議事(結果)

#### 議題(1) 次期計画策定に関する諮問について

宝塚市労働施策推進計画が来年度に終期をむかえるにあたり、次期計画策定に関する諮問書を中川宝塚市長より交付した。

#### 議題(2) 計画策定までのスケジュールについて

事務局より、次期計画策定までのスケジュールの説明を行った。

#### 議題(3) (現)宝塚市労働施策推進計画の進捗状況について

事務局より、(現)宝塚市労働施策推進計画の全56施策のうち、重点的な取り組みと今後の方向性が拡充している施策より抜粋して説明を行った。

委員からの質問等は、後記「委員の主な質問とやり取り」のとおり。

その他

契約課より、宝塚市公契約条例検討委員会の検討経緯と今後の予定を説明する。  
委員からの質問等は、後記「委員の主な質問とやり取り」のとおり。

《委員の主な意見とやりとり》

議題(2)次期計画策定までのスケジュールについて

[委員]

既に配布している実態調査には、回答者が障害者と分かるようになっているのか。

(事務局)

障害者かどうか分かるようにはなっていない。

[委員]

次回以降はその障害者が回答したことが分かるようにしてほしい。

(事務局)

どのように表現するか難しい面もある。よく考える必要があるため、障害者が回答したことがわかるようにするという事は、慎重に検討していく。意見は承った。

議題(3) (現) 宝塚市労働施策推進計画の進捗状況について

[委員]

ワークサポート宝塚について、ハローワークが行っている業務と同じなのか。ワークサポート宝塚の職員は非常に丁寧に対応してくれて、就職がすぐに決まり、就職決定後も、気にかけてくださったという話をきいたことがある。とてもよい施設であると思うので、もっと知名度を上げて、広く市民に利用してほしいと感じている。市内にはソリオのみか。

また、今後もワークサポート宝塚のような施設を増やすことを考えていないか。名称はハローワーク宝塚と変更できないか。

[会長]

ワークサポート宝塚の充実の施策の方向性は維持となっているが、拡充はしないのか。

(事務局)

今後の方向性は、維持である。財政上の問題で、施設を増やすことは検討していない。利便性が高い場所に設置しており、広く市民に利用していただけるよう今後も周知を継

続していく。

(委員)

ハローワークとワークサポート宝塚の業務内容は概ね同じであるが、ワークサポート宝塚では雇用保険等の業務は取り扱っていない点で違いはある。名称については、変更できるか今は分からず確認が必要である。

[委員]

市内に空き店舗は多いのか。また、補助が終了した後の補助対象事業所の状況は検証しているのか。

(事務局)

市内の空き店舗は、20%程度で推移しており、依然として多い状況ではある。

また、補助終了後は、すべての事業所には行っていないが、折に触れて事業所にうかがい、状況確認を行っている。経営支援を行っている商工会議所等と連携して今後も支援していく。

[委員]

現時点で待機児童は何人か。待機児童ゼロを目標としているが、長期的な対策はあるか。

10月から実施が決定した幼保無償化に伴う影響等をどのように考えているか。また、幼稚園でも預かり保育を行っているがそことの連携はどう考えているか。

学童保育においても待機児童が多いが、どう絡めていくか。

また、生活困窮者自立支援法が定着してきたが、本市においてこの事業の現在の課題はなにか。

(保育事業課)

待機児童は、現時点で約300人程度いる。

今後の対策としては、宝塚市次世代育成支援行動計画、宝塚市子ども・子育て支援事業計画が今年度末に終期を向かえ、来年度から次期計画期間が始まる。現在は、市民のニーズを調査しており、今後も継続して待機児童に対する支援を行っていく。

10月から開始する幼保無償化については、市民のニーズに即している要素もあるが、無償化の対象は幼稚園や保育所の預かり保育なども含んでおり、無償化に伴いどちらか一方にニーズが集中するという大きな変化はないと考えている。幼稚園の預かり保育も無償になるに伴い、現場の声としては急激に預かり保育が増加してしまうと、果たして自分

たちだけで受けきれぬのかという懸念もある。

学童保育については、所管ではないので詳細は不明だが、地域によって偏りが大きい。子ども子育て支援法の改正により、学童保育の対象が3年生までであったところ、市町村の裁量で6年生まで拡充することができるようになる。本市においても、対象を6年生まで拡充したため、やはり待機児童は一定数いるのが現状である。次世代育成支援行動計画の次期計画に待機児童についても盛り込んで今後も対策を検討していく。

(せいかつ支援課)

支援を続けているが、相談に来られる方は人間関係等何らかの理由で長期的に就労することが難しい方である。そういった方に対して、まずは短時間勤務から初めてみるなどの支援を行っている。

[委員]

特別支援学校に通っている方を対象としたインターンシップを実施しているか。

また、AIを活用することは人の仕事を奪うわけではないということを広く周知するための講演会やセミナーを検討してほしい。

(障害福祉課)

特別支援学校に通っている方を対象としたインターンシップの実施については、今は分からないので調べる必要がある。

[委員]

検討してほしいという意見である。

(事務局)

就労支援として、そのようなセミナーを開催するという視点はこれまでなかった。テーマの1つとして検討していきたい。

[委員]

配布された資料について、今後は各事業に対していくらコストをかけたか分かるよう資料を作成してほしい。

[委員]

事務局が事業を抜粋して説明する際、目標値と実績値が乖離しているところも説明してほしい。

(事務局)

承知した。

### 3. その他

[委員]

公契約条例の制定が遅れた理由はあるのか。

(契約課)

パブリックコメントで意見が多くあがったのも一因であるが、宝塚市が締結する大型案件の契約については、ほとんどが市外事業者と契約を締結している状態である。はたして市民の税金を他市に流出しても良いのかという議論がなかなか収まらず、制定が遅れている。

[委員]

貴重な意見であるが、市役所としてもよく検討してほしい。

[委員]

自身も毎年委託先がきちんと仕事ができているか、再委託して良いかをチェックしている。市内外問わず信頼できる事業者を選ぶべきである。

— 以上 —

—